

Chord Tone Arpeggio Basic Training vol.04

確実に覚えておきたい、コードトーン・アルペジオの話

～X7、5弦ルート5種のパターン～

前回に引き続き、X7のアルペジオを学んでいきます。今回は5弦ルートの形ですね。

XM7の時と同じく、ルートはE音に設定し、E7で弾いていきます。

インターバルとしては、root、M3rd、P5th、 \flat 7th(m7th)になるので、6弦ルートの時と同じく、XM7コードの時との違いである、7度の位置に注意して弾いていきましょう。

これまでの3本のテキストで弾いてきたように、2～3弦間を通らない限り、メジャートライアドの基本の形(音の配置)が同じであることを覚えてしまいましょう。

では、いつも通り、まずはヘッド側に展開するパターンです。

譜例1、E7、5弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その1

vol.02のXM7のものと比べると、7度の音が3弦に来ていますね(M7thとm7thの違い)。

6弦ルートの方でもそうですが、ルートに対して高音弦側にまっすぐ降りると、まずはこの位置にm7th(\flat 7th)が来ることを覚えてしまいましょう。

もちろん、他の位置関係も把握しているに越したことは無いのですが、こういうこと(インターバル)を普段から考えていると、いつの間にか覚えてしまっているのも、あまり気負わずにパズル感覚でやってしまっても良いですね。

次は、高音弦側に降りる(音階的には上昇)、代表的なパターンです。

譜例 2、E7、5 弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その 2

8 9 10

中 人 小 人 中 薬 人 小 中 人 中 人 中

(薬)

T A B

7 6 9 7 9 9 7 10 10 7 9 9 7 9 8 7 7 5 7 5 7

2、3弦の異弦同フレット(上記譜例では9フレット)の場所は、薬指のジョイントでも良いですね。

この辺りは、プレイスタイルや、フレージング、ノイズ軽減など、様々な要素によって決まってくるかと思います。

個人的には、譜例の通り、中→薬の指使いで弾くことがほとんどですね(2、3弦の音の重なりを最小限に出来るため)。

続いて、ルート音を中心に、1オクターブごとに上昇していくパターンです。

譜例 3、E7、5 弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その 3

11 12 13 14

中 人 小 中 小 人 人 小 中 小

(人) (薬)

T A B

7 6 9 7 9 9 9 12 10 12 12 10 12 9 9 9 7 9 8 7

vol.02の時と同じく、コードの構造が非常に見やすい(わかりやすい)ものです。両者を繋げて弾いても良いですね。

そして次は、5弦ルートのコードヴォイシングを基準にしたような形です。

譜例 4、E7、5 弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その 4

こちら、譜面にはスペースの都合で書いていませんが、2、3弦9フレットの指使いは中→中でも良いですね。

スウィープ&エコノミーピッキング等で速いフレーズとして弾くときなどは、中指ジョイントか、薬指ジョイントで弾く人が多いかもしれません。

この辺りも、状況に応じて色々試してみてください。

最後は、ボディ側に1オクターブずつ見るパターンですね。

譜例 5、E7、5弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その5

これも、XM7のものと同じく、3弦ルートで見るパターンはあまり使うことは無いかもしれません。

ただ、4弦にルートを見たパターンと重ねることもできるので、構造の把握としては大事な部分ですね。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼